



調布
狛江
保護司会だより

NO.32

発行責任者
調布狛江保護司会
会長 高木 光

深大寺社会参加活動

平成25年11月24日

深大寺社会参加活動

まだまだ難しい課題が少なくないことと存じますが、保護司の皆様と事業者がお互いをより深く理解し合うことで、一つでも多くの成果を生み出してゆくことができればと考えております。今後、保護司会の皆様方との関りや交流を持たせていただく事を通して、地域社会のお役にたてれば幸いです。

ここ数年では、私と世代が近い保護司の方も居られることで、保護司会との距離感もぐっと近づいた実感があります。そして、調布・狛江地区において協力雇用主会が立ち上がり、若輩ながら会長として関りをもたせていただくようになったことが、私自身の関心度を引き上げていただいたこととは言うまでもありません。弊社の主な事業は、市民の皆様がお出しになる廃棄物・資源物を収集させていただく仕事です。地域に根ざし、地域社会や市民の皆様方によってお育ていただいた会社であることを常に自覚しております。

保護司の皆様方におかれましては、日頃より更生保護活動に対し多大なるご努力・ご尽力を注がれておられますことに心から敬意を表します。また、その責務を果たされるにあたり保護対象者のみならず、我々事業者に対してもご理解を賜わっていることに深く感謝申し上げます。

さて、弊社が保護司の方と関りを持たせていただいたのは今から十数年前、お近くにお住いのある保護司の方から保護対象者の面接をお申し込みいただいたことから始まりました。現在に至るまで、正確な人数は把握できておりませんが3〜4名の方が弊社にて就労していただいたように記憶しております。実数としては少ないですが、日頃から各方面でご活躍され地域の中でも頼れる存在であり、よく顔の見える方が保護司として活躍されているので安心して受け入れできたことをよく覚えております。



保護司会との関りについて

協力雇用主会 会長 梶原 良介

社会復帰を共に支える

東京保護観察所立川支部長 杉山 多恵

内閣府による特別世論調査によれば、六割の人が「再犯防止のためには、過去に犯罪や非行をした人たちについても積極的に雇用すべき」と考え、協力雇用主の方も増加しているなど(注)、社会復帰のためには、就労及びその支援が必要であることについて、多くの人が認識しつつあります。

一方、保護観察対象者の四人に一人は無職という数字は、実際の就労状況の厳しさを示しています。背景に、派遣等不安定な就業下に置かれるなどの厳しい就労事情に加え、社会経験の少なさ故に円滑な人間関係を築けなかったり、時間を守る等社会生活上基本となる行動が出来ないなど、対象者自身の問題も指摘されているところです。雇用してみたものの、対象者の不誠実な態度に、裏切られたという思いを経験した雇主の方も少なくありません。就職支援、定着支援に加え、今後は、本人が抱える問題、限界について、雇主の方に理解、共有していただく努力も必要と思われるます。

就職は経済的自立という意味にとどまらず、仕事を通じて人との関係性の中に自分を位置づけ、生き甲斐を見いだし、そのことによって、孤立や社会不適応に起因する再犯を防止するという意義もあります。保護司と協力雇用主、地域の方が対象者の抱える問題を理解、共有し、協力してその自立を支えていくことが求められています。

(注)平成二十五年四月現在一万一、〇四四人。前年比一・〇九一増。勉強になりました。

地区管外研修

甲府刑務所の視察

荒井 悟

酷暑が続く九月三日に調布狛江保護司会のバスは甲府に向けて出発しました。甲府刑務所の厳重な門に入り受付で手続きを済ませた後に研修室に案内され、総務部長の山本刑務官からご挨拶を頂き甲府刑務所の概要説明をして頂きました。甲府刑務所は現在八十八%の収容率で成人受刑者が多く年齢は八十三歳から二十歳で外国人が七十三人も収監されその多くがアジア系の方だそうです。受刑者の最高年齢の年齢に驚いてしまいました。甲府刑務所の作業は木工、革加工、鉄工、給食の棟があり専門知識を身に付け社会に適應できるように作業をしています。厳重なゲートを何重にも通り作業棟に入ると黙々と作業をする受刑者の方たちの姿がありました。視察を終え研修室に戻り受刑者の作品を巧みな話術で紹介して頂き、お土産が増えたように思いました。規律ある規則正しい生活の中で受刑者の頑張る姿を見ることができ有意義な研修でした。



十月十八日

先輩保護司経験談に学ぶ

山本 良子

谷戸一郎保護司の三十年間に一度も辞めたいと思う事は無く自分を律する年月で良かった。二月の厳寒に北海道旭川刑務所に面会に出向くと、所長は「見知らぬこの方が遠方より来てくれた」私の様な者を認めてくれたと、昔の出来事に声を詰まらせる場面もあった。出来ないながらも一生懸命にやって来た。尊敬する観察官に会えた事も話され苦も楽しい思い出。対象者に信頼されたと感じたらもう大丈夫と頑張り、必ず五日前に届く様に面接の後すぐ報告書は書いた。氏の言葉のすべてが謙虚で学ぶ点が多かった。

春日原秀隆保護司はただ勤めと眠るだけで終わる日々から保護司としての十四年間は皆に会えて良かった。労働省での経験から就労の大事さを考え何か自分が役立つならと働いた。二十二件の対象者の中に心残りがあり、資料配布の上問題提起引き受け人によって人の不幸が分かれる事を指摘。早い内に関係機関会議が必要と力説され真摯な姿が見られた。両氏共に定年退任を迎えても尚、熱き思いが見られた。もっと聞きたい！有意義な自主研修でした。



春日原・谷戸の両氏

研修報告

東京保護観察所立川支部

難波 昌彦

平成二十五年十一月二十八日から同年十二月二十日まで、第六回保護観察官専修科研修前期という事で二十三日間の研修を受けて参りました。

今回はその研修内容のうち特に印象に残ったものを紹介したいと思います。

最近、中央で行われるものを含め、各地の保護司が集まる協議会等の意見の中で、主任官が行う地域別定例研修の評判が非常に悪いそうです。そのことについて、後期までに原因を考えてくるようにとの課題が出ました。毎回、伝えなければならぬことをまとめることで精一杯で、受講していただく側の思いを考えることが少ない私にとって、非常に考えさせられる課題です。果たしてどういったものなのでしょう。

本原稿を書いているのは平成二十六年二月中旬ですが、専修科後期が二月末から新任観察官の総まとめとして開催されます。その際には与えられた課題の回答もあると思われます。その折には、自分の身を振り返るとともに、また皆様にその回答をお知らせしたいと思います。

地区自主研修の報告

井出 節子

十一月五日調布市福祉センター二〇三、二〇四にて、自主研修が行われました。

今回は協力雇用主の方々を講師にお招きして、実際の就労の話がうかがえました。

狛江の加藤商事金井様から平成二十三年に保護観察となったある少年のケースが紹介されました。観察となったある少年のケースが紹介されました。観察で眼光鋭い印象だったのが、就労後明るい表情になってきたこと、清掃補助の仕事は複数の先輩とペアでしたのが良かったのではないかと。担当保護司の宮内さんからもうまくいった例だったとコメントされました。調布清掃、味彩ワールドの方からも実例をあげていただき、協力雇用主の実際がよくわかりました。

研修終了後、中華料理店に場所を移して懇親会。保護司と協力雇用主の距離が縮まったようでした。



調布市立中学校と

保護観察所・保護司との連絡協議会

調布分区分区学校連携推進委員

委員長 岡本 幸次

今年度も十一月七日、調布市教育会館において第十五回目となる調布市立中学校の生活指導主任の先生がたとの連絡協議会を開催致しました。

生活指導の先生を中心に、各中学校担当保護司が中学校校区ごとの八グループに分かれての話し合いや、情報交換を行い学校の現状を知ることでも出来ました。今年も観察所で事例を用意していただいたので話し合いも一層具体的なものとなりました。生活指導は学校だけでは困難な時代であり、様々な諸機関がそれぞれの特徴のある力を出し合って解決していく事が求められていると思います。保護司は非行や罪を犯した人の立ち直りを支える活動をし、様々な事例を扱っています。この経験を生かして、学校現場を支援することが、保護司として学校に出来ることではないかと思えます。

市立小学校生活指導主任との懇談会

十月十日調布市教育会館三〇一・三〇二号室に於いて実施しました。市内小学校指導主任の先生をはじめ二十三名、保護司二十七名が出席して懇談会を行いました。

調布・狛江地区平成二十五年度 深大寺社会参加活動報告

調布・狛江地区 地域活動部

副部長 谷田部 一之

平成二十五年十一月二十四日(日)快晴のもと毎年恒例になりました深大寺社会参加活動を来賓であります、調布・狛江両市長もお見えになり観察所六名、関係機関七名、深大寺二十五名、桐友会一名、更生保護女性会十一名、BBS五名、調布・狛江地区保護司五十八名、対象者五名、合計百二十名盛会に行われました。内容は、午前中お堂境内の清掃、元三大師堂、開山堂、不動堂、深沙大王堂、釈迦堂の清掃、昼食は、更生保護女性会の皆さんが美味しいおでんを作って頂き両市長、関係者、保護司の皆さんが美味しく頂きました。午後は、仏具磨きをし、最後は護摩供養をしてもらい身も心もきれいになりました。当日は、警察の拝観(家族慰安)があり開会式からバタバタし関係者には大変ご迷惑をおかけしたことを深くお詫びをいたします。寒さ一段と厳しくなってきた深大寺社会参加活動でしたが対象者が希望に満ちた元気な顔で真剣に取り組んでいる姿を見て、改めてこの事業の大きさが解りこの深大寺社会参加活動がより発展することを願って報告とさせていただきます。



深大寺における社会参加活動について

毛塚 敬進

十一月二十四日(日)午前十時より午後三時まで、協力団体を含め一〇〇名を超える人員で、恒例の深大寺清掃が行われました。当日は、天候も良く七五三や出産のお宮参りの方も多く、参拝者で境内は賑やかな中、作業は順調に進みました。

初めての参加で、皆さんに倣い、お堂大扉の水洗いと午後は仏具磨きをさせていただきました。仏具磨きでは、参加者が互いの想いを語り合いながら手を動かし、その場は清らかな空間でした。仏具の輝きを取り戻すだけではなく、私自身の気持ち晴れやかになったことを覚えています。

今年の輝きを取り戻した仏具を前に、家族の健康と社会の平和を祈り、保護司の一人として参加できたことに、喜びと誇りを抱くことができました。実施にあたり担当の方々のご尽力に感謝致します。

参加者の感想

①社会参加活動に出席した保護司の感想(抜粋)

*十一月最後の日曜日で、天候も良かったせいか参拝者が多く、何度か作業を中断することになりましたが、対象者にとっては良い休憩時間になったと思います。

*今回の行事の案内が届いた時点から本人、両親共積極的に参加を希望していた。活動の内容を理解し素直に全行程に亘り協力的であった。

た。BBS、

更女、保護司の皆様に励

まされ対象者共々有意義な一日であったと思います。

*晴天の下深大

寺社会参加活動は八時三十分の受付後、活動は開始しました。保護司他百二十名程の参加がある事を聞き、地域の誰もが望む非行犯罪のない安心、安全な地域を作る感心の高さに感動しました。

*久し振りに対象者を連れての参加。

お天気に恵まれ、作業も早目に進み、それは良かったと思う。歴代の主任官のなつかしい顔を見つけ、話しが出来、良い雰囲気でした。回を重ねることの良さを感じました。

*対象者は、この活動に参加することを楽しみにしていたようである。

普通は対象者を同伴すると何かと気をつかうものだが、今回についてはそう言った事はなかった。

②対象者の様子はいかがでしたか。

*近所に住む五中の一年先輩と一緒に参加。二人が常に一緒に、揃って姿が見えなくなるので余計な心配をしてみました。最後の本堂の仏具みがきには遅れて、揃ってやってきたの





*明るい性格のため、赤木観察官や女性保護司と普通に会話をしていた。作業に入ると御堂の回りのほき掃除をしたり仏具磨きも積極的にやっていた。与えられた事に対して、積極的に取り組む姿が見られた。

でホッとした。空白の時間という待ち時間が多かったように思う。

*開山堂不動堂の清掃、仏具磨きを興味深く、周囲のあたたい見守りで積極的に行動していました。今後の生活により方向に進む事を望みます。

*釈迦堂の担当だったが長身(一八三cm)ならでの清掃作業を積極的に行っていった。仏具磨きも丁寧に頑張っていた。食事でも楽しんで食べた。私以外の人の会話ははずみ楽しそうな様子だった。彼にとって有意義な一日だったと思う。

*BBSの二人が、それぞれに話しかけ一緒に作業をしていただき、本人も、最後までまじめに取り組むことができました。休憩や食事の間もBBSと話す機会ができ、同世代とは違う交流は本人にとってよい経験になったと思われる。皆さんに声をかけられ、うれしかったのでしよう、好き嫌いが多いと言っていたのに、おいしく食事ができたようです。

③活動を充実させるための意見

*共犯とかの問題はあるが、やはりひとりでも多くの対象者が参加できるようにするといいいのではないか。今後こう言った方策も考えてはどうか。

*これからもBBSの活躍を期待します。

*対象者の参加人数を懸念する声があると思いますが、参加する対象者を含めBBS、更女、保護司等々としても尊い奉仕活動に充実感をもったと思う。参加者の「ヤル気」の問題だと思ふ。これからも続けて欲しい行事と思ふ。

*それぞれのポジション、チーム調布の意識を持って活動していきたいと思ふ。統括責任者はじめ、責任者の方々ありがとうございます。

*対象者の参加がもっと多くなるといいなと思ふのは無理？

対象者の感想(原文そのまま)

*寺の物をみがいて、自分の心がいやされた感じがしました。また、やってみたいと思ふしました。

*ふつうじゃ経験できない事を色々できてためになりました。

*今日は、深大寺に行き、お寺掃除をやりました。実は、最初は、お寺の掃除やだなどいなと思ふか思ふてたんですが、やってみるととても楽し



しく、若いお兄さん達2人もていねいに教えてくれてとても楽しかったです。それから物もちやんとキレイにふけたので良かったです。今日はとてもいい体験になりました。ありがとうございました。

*ボランティアをして、お金とか関係なく人のためにやることはとても良いことだと実感しました。また、お寺の掃除などで普段できない体験ができて良かったです。

*今回の活動を通して周りの人々と協力することの大切さを改めて学びましたし、周りの方々に支えられていることの感謝の気持ちを再確認できました。また、空き時間に深大寺を散策し、今まで知らなかったことを知ることができて良かったです。今回の活動に参加するのは少し不安でしたが、終わってみるととてもやりがいがあり、充実した時間で新鮮な経験でした。関係者の方々、本当にありがとうございました。

更女 深大寺台所

新鮮な卵を頂き、おてんのゆで卵にしましたが、ゆで方に問題があったらしく、殻むきに手間取りました。頂いたじゃがいも、きゅうり、人参でメニューはなかったポテトサラダを急遽作ったが、とても好評でした。



桐友会だより

調布・狛江地区桐友会

副会長 三沢 寿

会員の親睦をはかるために桐友会の会員で医師の中村昇先生にお願いして高齢者の健康管理について話をしていただき、お茶でも飲みながらおしゃべりをしようという、そんな気楽な懇親会を計画し昨年十一月十八日実施しました。

中村先生は討議用の資料も作成し、長年にわたる貴重な経験とたくさんの方々の事例を話してくださったのでわかりやすく出席者の皆さんもたいへん参考になったことと思います。

地区保護司会から会長をはじめ保護司の方々にも出席していただきなごやかで有意義な懇親会でした。

中村先生、地区保護司会の皆様、ご協力ありがとうございました。

更生保護女性会だより

調布・狛江地区更生保護女性会

副会長 園田 和子

平成二十五年は七名の新しい理事が加わり、社会参加活動(神代農場・深大寺)の前日準備と調理、当日の調理・配膳、「社会を明るくする運動」等の活動に参加し頑張っています。十月には、東更女第七ブロック研修会を、当番地区として調布にて開催いたしました。研修会には調布市長・狛江市長・高木会長・鴨志田副会長・川合副会長・東京

保護観察所立川支部にご参加いただき心より深謝申し上げます。十一月の保護司会・更女交流会では、有意義な意見交流をさせていただきました。

今年度は、十一月にバス研修『横浜税関』、一月ミニ研修は『調布学園訪問』、関東医療少年院のファッションショー、クリスマス会等の各行事(六回)への参加と府中刑務所の運動会、文化祭に参加と充実した一年間でした。

BBS会だより

調布・狛江地区BBS会

会長 北谷 慎太郎

十一月二十四日、深大寺の社会参加活動に当地区会から五名が参加致しました。当地区会では昨今、社会人比率が高まっており、仕事の多忙の為、なかなか顔を合わせることができない会員もおりますが、年に二回の社会参加活動の参加率は比較的高く、ここがBBS会員同士の近況報告の場となることも少なくありません。今後も会員相互の連携を深め、チームワークをいかした活動続けていければと考えております。

また、去年は前途の会員相互の連携強化という脈絡で、去る十二月二十一日、調布狛江BBS忘年会を実施致しました。暮れの押し迫った時期に急遽、決定、開催したということもあり、今回は男子四名の参加に止まりましたが、また、調布狛江BBS会の新たな一面を見いだせたような気がしております。

福祉まつり(バザー)に参加して

内野 陽次郎

第三十六回調布市福祉まつりが、十二月七日(土)、八日(日)調布市役所前庭等で盛大に開催され、調布分区も八日のバザーに参加を致しました。当日は寒風が吹き肌寒い一日でしたが、多くの方に参加いただき売上ができました。

ご存じのように、福祉まつりは、福祉のまちづくりの一環として、福祉への理解を深め、福祉活動への参加・交流を図る等、また、バザーの収益金は福祉活動資金として活用されます。少しでも福祉活動のお役に立てればと思っております。

最後になりましたが、バザーに参加するに当たり、品物・新鮮な野菜等のご寄附、前日の値付け、当日のお手伝いと、お忙しい時期にも関わらず皆様方にご協力をいただき無事終了する事が出来ました。本当にありがとうございました。



調布分区理事研修

二月二十三日、調布分区理事十名が参加して、浜松へ研修に行きました。研修先は、更生保護事業の先達とも言われる金原明善記念館です。

天竜川の治水、植林事業を私財を投げうって進め、「暴れ天竜」を治めたと共に、刑務所を出た人の社会復帰を支援する団体を創設した、金原明善翁の足跡がよくわかりました。明治時代にこのような先駆的な更生保護事業が行われていたことに、あらためて驚かされました。

丁寧な案内をして下さった記念館の館主から資料をいただいてまいりました。ご覧になりたい方は、お申し出ください。



金原明善生家前

秋の叙勲



瑞宝雙光章
土屋 邦子様

更生保護事業関係者 表彰者

法務大臣表彰

相田 常行様

全国保護司連盟理事長表彰

大林 孝男様

全国保護司連盟理事長表彰 (内助功労者)

高木 文代様

関東地方更生保護委員会委員長表彰

- 石黒 實様 伊藤 知弘様
- 川合 章雄様 三角 武久様
- 宮内 弘様 矢辺 良子様

関東地方保護司連盟会長表彰

- 大竹 寛様 岡本 幸次様
- 小川 保様 小川 時雄様
- 佐藤 正仁様 富永 淑子様
- 濱中 佳朗様 眞山 勇一様

東京保護観察所長表彰

- 小野 道博様 小室 静子様

東京都保護司会連合会会長表彰

- 内野陽次郎様 遠藤 好照様
- 小幡 邦仁様 小町 新一様
- 佐藤 亜古様 嶋田 弘子様
- 豊島 秀臣様 門傳 良男様

東京保護観察所長感謝状 (家族功労)

川合 和子様

保護観察所長感謝状

民間協力功労者 株式会社 味彩

受彰の皆様

おめでとうございます

地区保護司会新年会

平成二十六年一月十七日、地区保護司会新年会が調布狛江両市長、並びに両市議会議長をお迎えし開催された。地区保護司会の充足率は一〇〇%になった。社会を明るくする運動や、社会参加活動などでは啓蒙に力を入れ、中学吹奏楽部のコンサートやサッカー教室など活動の輪が広がり、ますます充実した活動が期待できる新年の幕開けとなった。アトラクションもあり、和やかかつ華やかな新年会となった。



保護司会の今後の予定

- 四月 十一日 調布分区総会
- 四月 十八日 狛江分区総会
- 四月 十八日 定期総会
- 六月 一日 神代農場社会参加活動
- 六月 十一日 地域別定例研修第Ⅰ期
- (調布市総合福祉センター)
- 七月 一日 社明 駅頭広報
- 七月 十九日 中学生サッカー教室
- (観戦は七月二十七日)
- 七月二十六日 社明 調布実施大会
- 十月 九日 小学生意見発表会
- 十月 十五日 地域別定例研修第Ⅱ期
- (狛江市エコルマホール)
- 十一月 六日 中学校連絡協議会(調布)
- 十一月 三十日 深大寺社会参加活動
- 十二月 五日 地域別定例研修第Ⅲ期 調布
- (調布市総合福祉センター)

新任保護司の紹介



平成二十五年九月委嘱
毛塚 敬進



平成二十六年二月委嘱
矢幡 秀治

あとがき

ソチで開催された冬季五輪は、何かと話題の多い大会で日本中、いや世界中の人々に勇気と感動を与えて、華々しく閉会となった。また明るい話題の一方で、忘れられない出来事がある。それは丸三年を過ぎた東日本大震災である。現在もまだ避難生活を送る人々が多勢いるという厳しい現実、原発崩壊に伴う放射能の問題等々考えさせられる。一日でも早い復興を願ってやまない。

最後に広報誌三十二号の発行に際して、原稿をいただいたり、御協力をいただいた方々に感謝申し上げます。

白川 精次



広報(編集) 部員

- | | | |
|-----|-------|-------|
| 部長 | 白川 精次 | 愛甲 悦子 |
| 副部長 | 柿沢 正夫 | 伊藤 知弘 |
| 副部長 | 濱中 佳朗 | 西山 節子 |
| 書記 | 嶋田 弘子 | 長谷 瑞信 |
| 書記 | 峯岸 伴則 | 林田 堯瞬 |
| 書記 | 桑田 和紘 | 馬部 久夫 |
| 会計 | 佐藤 亜古 | 真山 勇一 |

第六十二回 社会を明るくする運動作文コンテスト

佳作 調布市立第三中学校一年 長崎 悠歩

奨励賞 (東京保護観察所長感謝状)

- 調布市立神代中学校
- 調布市立第三中学校
- 調布市立第七中学校

受彰の皆様おめでとございます